

## Japanese Furniture Brands Exhibition 2026

## Ambient Dimensions

## —— 自然の気配と溶け合う、暮らしの空間 ——

風を感じ、光を浴び、鳥の声を聴きながら家具に身を委ねる。  
御代田のインテリアギャラリー「SAMNICON (サムニコン)」が、  
自然と共存する「リアルな暮らし」から日本の家具を提案するエキシビション・シリーズ始動

会場：SAMNICON [長野県北佐久郡御代田町塩野482-10]

日程：2026年7月10日(金)～12月20日(日)



 TAKUMI KOHGEI

Vol.1 匠工芸

7月10日(金) - 8月16日(日)  
2026年



Vol.2 広松木工

8月21日(金) - 9月27日(日)  
2026年

*nissin*

Vol.3 日進木工

11月13日(金) - 12月20日(日)  
2026年

デザイナー 松岡智之と、SyuRo 宇南山加子が、3つの家具ブランドがリレー形式で紡ぐ5ヶ月間。

長野県北佐久郡御代田町にて、日々の暮らしに寄り添うインテリア全般を提案しているギャラリー「SAMNICON (サムニコン)」は、2026年7月10日(金)から12月20日(日)にかけ、プロダクトデザイナー、松岡智之がデザインを手がける日本屈指の家具ブランド3社(匠工芸、広松木工、日進木工)と、リレー形式の特別なエキシビション・シリーズを開催いたします。

このエキシビション・シリーズでは、日本各地の家具産地で受け継がれてきた高度な木工技術や職人の手仕事から生まれた家具を、SAMNICONならではの自然豊かな環境の中で展示いたします。会場では、開放的な窓から差し込む光や吹き抜ける風、木々のざわめきや鳥の声といった自然の営みを感じながら、実際に家具に触れ、その座り心地や素材の質感、空間との調和を体感していただけます。製品の機能やスペックだけでは伝わらない、家具が暮らしにもたらす心地よさや佇まい、時間とともに育まれる価値を五感で味わうことで、日本のものづくりが培ってきた美意識とクラフトマンシップ、そしてこれからの豊かな暮らしのあり方を提案します。また、会期中は、展示現品を特別価格にて販売いたします。(一部、特別価格販売の対象外となる商品がございます。)

第一弾は、北海道の匠工芸。2026年7月10日(金)～8月16日(日)の期間開催。

北海道、大雪山の麓で培われた高度な木工技術と、職人の手仕事による丁寧な家具づくりで高い評価を得る「匠工芸」。2013年から続く松岡との協働によって生まれた、シンプルで端正な、暮らしに馴染む家具たち。その確かな佇まいをSAMNICONの空間でぜひご体感ください。

## Ambient Dimensions — Vol. 1 | TAKUMI KOHGEI

会期：2026年7月10日（金）～8月16日（日）



匠工芸は、北海道、大雪山を望む東神楽町を拠点に、長年にわたり家具づくりを続けてきたメーカーです。創業以来、自然への敬意と素材への深い理解を礎としながら、職人の手仕事と技術の蓄積によって、多彩な製品を生み出してきました。そのものづくりは、特定の技法や様式に依拠するのではなく、それぞれのデザインが求める課題に真摯に向き合い、設計者と職人が対話を重ねながら最適なかたちを探り出していく姿勢に特徴があります。

2013年の松岡智之との出会い以来、継続的な協働を重ね、現在までに複数のシリーズを発表してきました。松岡が提案する明快なコンセプトと造形に対し、匠工芸は高い設計力と木工技術をもって応答し、その実現を支えてきました。そこには、メーカーとデザイナーが対等な立場で意見を交わしながら、一つの家具の完成形を探求する姿勢があります。

本展では、両者の最初の協働作であり、IFDA（国際家具デザインコンペティション旭川）入選作品でもある《TAPERED》をはじめ、《SPREAD》《FAWN》、そして最新シリーズ《TERRIER》まで、これまで発表された各シリーズから選りすぐりの作品を紹介します。椅子やラウンジチェア、ソファ、テーブル、キャビネットなど、多彩なアイテムが一堂に会します。

今回展示されるすべての作品は、北海道産ナラ材を使用し、本展のために選定された特別なファブリックを張り込んだスペシャルバージョンです。また、匠工芸が一貫して追求してきた「座り心地」にもご注目ください。試作段階から身体感覚と人間工学的な検証を重ねることで実現される快適性は、造形的な美しさとともに家具の中に息づいています。

会場では、これらの家具を用いて3つのシーンを構成します。展示ディレクションを手がける宇南山加子は、匠工芸の根底にある自然へのリスペクトを起点に、SAMNICONの空間において、家具そのものの魅力とともに、その内側に息づく思想や技術、そして北海道の風土とのつながりを静かに描き出します。

## ■ about TAKUMI KOHGEI

匠工芸は、1979年に家具職人である桑原義彦氏によって北海道上川郡東神楽町で創業された木製家具メーカーです。旭川家具産地の一翼を担いながら、木の魅力を最大限に生かした家具づくりに取り組み、高品質な製品を生み出しています。

「心に届ける」を理念に掲げ、設計から製造・仕上げまでを一貫して行う体制を整え、熟練した職人たちの確かな技術と丁寧なものづくりを大切にしています。特に、旭川家具の中でも優れた技術を持つ職人が品質を支えるメーカーとして高い評価を得ています。細部までこだわった精度の高い加工や美しい仕上げによって、製品の品質を支えています。

北海道の豊かな森林資源を背景に道産材を積極的に活用し、素材の個性や温もりを引き出しながら、使い手の暮らしに寄り添う家具づくりを追求しています。また、国内外のデザイナーとの協働にも積極的に取り組み、デザイナーの思想や意図を高い木工技術によって具現化することで、独自性と品質を兼ね備えた製品を展開しています。

[takumikohgei.com](http://takumikohgei.com)

## ■ statement of "Ambient Dimensions"

日本の家具展示会の多くは、都市部の大型展示会場など、無機質な「箱物」の空間で開催されてきました。効率的に製品を並べ、スペックを比較するには適していても、本来の家具とは、私たちの日常や豊かな自然環境と地続きにあるはずのものです。数値だけでは測れない、空間に置いたときの佇まいや暮らしに馴染む心地よさこそが、家具の本質ではないでしょうか。

長野県御代田の地に開かれたインテリアギャラリー「SAMNICON（サムニコン）」は、都会の過密な暮らしから離れ、太陽・風・水・土といった自然の力を取り込み、少ないエネルギーで循環していく豊かな生き方を探求する場所として計画されました。「モノで満たされる豊かさ」ではなく、「誰とどんな時間を過ごすか」「自然の中でどう癒されるか」という精神的な豊かさを大切に、日常の瞬一瞬を慈しむ思想をそのまま表現しています。

本プロジェクトのタイトルである「Ambient Dimensions」とは、風や光、音といった、空間全体を包み込む「環境（アンビエント）」そのものをデザインの尺度（ディメンションズ）として捉え、そこに人々を迎える空間を作り上げる、という思想から名付けられました。

単にプロダクトを並べて販売するのではなく、開け放たれた窓から吹き抜ける風を感じ、移ろう光を浴び、鳥や木々の音に耳を澄ませながら、家具に深く身を委ねてみる。そんな五感をひらく情景の中で、目に見えない空気感や気配までもがデザインの寸法として溶け込んだ「本当に心地よい暮らし」をリアルに体感していただくこと。これこそが、私たちがこの地で展示会を始動させた強い想いです。

現在、インテリア選びにおいて海外の有名家具メーカーが選ばれがちな傾向があります。しかし、現在「デザイン大国」と呼ばれるヨーロッパの家具も、19世紀以降、日本の美意識や工芸技術はジャポニズムを通じてヨーロッパのデザインにも大きな影響を与えてきました。私たちが暮らす日本には、海

の向こうへも影響を与えてきた世界に誇る高い技術があり、現代の暮らしに調和する美しく、使い心地の良いプロダクトが多く存在しています。本展を通じて、日本の上質なもののづくりの背景やその深い魅力を一人でも多くの方に知っていただき、これからの暮らしを仕立てる上での「豊かな選択肢」を増やしていただきたいと思います。

この思想を具現化するため、松岡智之と宇南山加子が、デザイナーとディレクターとしてタッグを組み、本展を作り上げます。

デザイナーである松岡は、日本全国の家具産地が持つ多様な技術を深く理解し、職人たちの息遣いまでも美しい家具へと昇華させることに真摯に向き合ってきました。デンマークでの生活経験から得た心地よい空間の記憶と、日本の精緻な技術への深い理解、そして経験に裏打ちされたデザイン力を三位一体としながら、端整で身体に優しい、本当の意味でリラックスできる家具を生み出しています。

一方、ディレクションを手がける宇南山加子は、日本の伝統的な「マイナスの美意識」を引き出しながら空間を仕立てることを得意としています。足し算ではなく、あえて引き算をすることで生まれる余白の美。素材感を活かした「空間ありき」の視点で五感を研ぎ澄まし、空気感や心地よさといった“目に見えない部分”を確かな価値に変えてデザイン要素へと取り込んでいきます。

日本トップクラスの職人が紡ぐクラフトマンシップ、そして家具の真髄を見つめ続ける松岡の実直な設計思想を、宇南山独自の空間演出とともに――。SAMNICON が持つ独特の空気感が響き合うことで、プロダクトはより深い体験へと昇華されます。

私たちはこの場所から、次世代へとつながる持続可能で意味のある暮らしの文化と、トータルなライフスタイルデザインを提案してまいります。ここで過ごす時間が、皆さんの暮らしに深く届くことを心より望んでおります。

2026年6月 宇南山加子 松岡智之

## ■ about SAMNICON

SAMNICON（サムニコン）は禅における言葉 SAM（作務）と NICON（而今）を合わせた造語です。SAM（作務）は食事、掃除、洗濯、農作業など、仕事と生活そのものを示し、NICON（而今）は中今を大切に生きるということを示しています。日々の暮らしの瞬一瞬を慈しむことによって、五感が養われ、思いやりや優しさなどの大切さに気づき、豊かに楽しく過ごしていける場所でもありますように。インテリア全般をご提案しております。

official site : <https://syuro.co.jp/shops/samnicon/> instagram : [samnicon\\_miyota](https://www.instagram.com/samnicon_miyota)

## ■ profile

松岡 智之 | Tomoyuki Matsuoka プロダクトデザイナー

1970年三重県生まれ。1992年千葉大学工学部卒業後、株式会社 GK 設計を経て、1999年よりデンマーク王立芸術アカデミーへ留学。在学中より欧州を中心にフリーランス活動を開始し、2001年に「TOMOYUKI MATSUOKA DESIGN」を設立。北欧での実体験を活かした「シンプルで美しく、永く愛され暮らしに馴染む」プロダクトを目指し、国内外の企業と家具や日用品の開発に取り組む。近年は商品デザインに留まらず、写真のスタイリングやカタログのディレクションなど、魅力を伝えるトータルプランニングも手掛ける。2014年国際家具デザインコンペティション旭川にてシルバーリーフ賞受賞。

[www.tomoyukimatsuoka.jp](http://www.tomoyukimatsuoka.jp)

宇南山 加子 | Masuko Unayama ディレクター、デザイナー 株式会社 SyuRo 代表

日常に馴染み使い続けられる生活日用品のプロダクトデザインをはじめ、ホテルやレストラン、美術館等のデザイン監修や企業のブランド構築にも携わり、空間ありきのディレクションを幅広く手がける。オリジナルブランド「SyuRo」は海外30カ国で展開。

2008年には東京・蔵前に直営店を開き、街の発展に貢献した。近年、長野県御代田町へ移住しギャラリー「SAMNICON (サムニコン)」をオープン。禅の言葉「作務 (SAM)」と「而今 (NICON)」に由来し、日々の営みを慈しみ、いまこの瞬間を丁寧に生きるライフスタイルを提案。現在は自然とデザインが共存する、持続可能な暮らしのあり方を伝えている。

<https://syuro.co.jp>

## ■ exhibition schedule

## Vol.1 匠工芸 (北海道・東神楽町)

会期：2026年7月10日(金)～8月16日(日)

大雪山の麓で培われた高度な木工技術と、職人の手仕事による丁寧な家具作りで高い評価を得る「匠工芸」。2013年より続く松岡とのコラボレーションから生まれた、シンプルで端整な、暮らしに馴染む家具たちを SAMNICON の空間でご体感いただけます。

## Vol.2 広松木工 (福岡県・大川市)

会期：2026年8月21日(金)～9月27日(日)

松岡とのデザインの歩みが10年を迎える「広松木工」。今回は SAMNICON での空間提案にとどまらず、地域を巻き込んだ特別なコンテンツを展開します。

## Vol.3 日進木工 (岐阜県・高山市)

会期：2026年11月13日(金)～12月20日(日)

伝統の飛騨の匠の技を継承しながら、現代のライフスタイルに合わせた軽快で洗練された木製家具を作り続ける「日進木工」。今年で創業80周年という大きな節目を迎える同社から、新たに発表される新作「Ballett」も本展にて展示いたします。シリーズの締めくくりにふさわしい、確かな意匠と技術の結晶が SAMNICON を彩ります。

## ■ gallery opening days and hours

7月10日(金)～8月20日(日)の期間は、月・火・水定休 営業時間：11時～18時

※ 上記期間以外の営業については、[Instagram](https://www.instagram.com/syuuro) をご参照ください。

Contact

SAMNICON e-mail: [info@syuro.co.jp](mailto:info@syuro.co.jp) (株式会社 SyuRo) tel: 050-1288-9340

Press Contact

本件に関するご取材、ご掲載に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

山本真澄 e-mail: [masumi.y.pr@gmail.com](mailto:masumi.y.pr@gmail.com) mob: 090-4062-6361Press Kit → <https://drive.google.com/drive/folders/1089ZF0A6ZNYwq6FSt9NorY4z95fRnyyD?usp=sharing>